



港で釣りを楽しむ林さん

橋 建設工事が始まる少し前からフェリー「黒之瀬戸丸」の待合所付近で旅館「黒潮荘」を夫婦で営業していた林オサヲさんに当時の様子を伺いました。

——旅館を始めたきっかけは今何歳で夫が独断で決めた。私は最初反対していたが、お客さんに悪い思いをさせてはいけないと、一生懸命にがんばりました。

——どんなかたが宿泊していましたか

架橋前の調査を行うサルベージの作業員からとび職、橋が架かった後は、ペンキを使う塗装作業の人たちが宿泊していました。

——宿泊した作業員で思い出は

残っているかたはいますか
特にとび職の若者は血気盛んでした。夜にお酒が入ると作業員同士のけんかもあり、私が仲裁に入ることもありました。だけど元気な子ほど人情に厚く、私のことを「お母さん」と呼んでもらって、架橋後の数十年の間、連絡を取っていました。当時は大変だったけど、今は本当に良い思い出です。

——架橋後50年を迎えて思うことは

橋ができてとても便利になった。毎日楽しく暮らしているのが現状維持が目標です。

アイショップかわみなみ店主
かつのり
中納 克徳 さん (73)

橋開通後、新聞に取材を受けた中納さん。23歳の当時は、青年団活動などを活発に行っていた。

旅館「黒潮荘」女将

林 オサヲ さん (90)

旅館「黒潮荘」には、元氣あふれる若い作業員などが宿泊し活気にあふれていた。

長島町



阿久根市

黒之浜港で漁業を営む

みつのり
福浦 三則 さん (68)

阿久根側の県営フェリーの発着港である黒之浜で15歳から漁師となる。

(有)三昌モーターズ 会長

みつお
松木 三雄 さん (85)

阿久根側から車両第1号として長島へ。有料期間最終車両も松木さん。

三

笠中学校卒業後、地元黒之浜で漁業を始める。黒之瀬戸大橋開通前に運行されていた県営フェリー「黒之瀬戸丸」が発着を行う黒之浜港で50年以上漁業を営みながら、黒之浜港や黒之瀬戸海峡の変化を目の当たりにしてきました。橋の開通を境にした、地元生活の変化を伺いました。

——開通前の黒之浜の様子は待ちあいの車が長い列を作っていました。私の1級上である昭和29年生まれの子供方までは、長島から三笠中学校にフェリーとバスを使って通っていたので、フェリーの待合の時間には、寄って語らっていたことを覚えています。フェリー乗り場の近

くには回転焼きを売るお店があり、そこも人気がありました。——50年前の橋建設の様子は地元黒之浜で漁師の仕事をしており、毎日、船の上から目と鼻の先にある建設現場を見ていました。まさかここに橋が架かるとは、当時は想像もつかなかった。なので、両側から徐々に出来ていき、中央で狂いもなく閉合されたところを見て、夢みたいない感動と驚きがありました。

——開通後はフェリーがなくなり、黒之浜は少しさびしさもありましたが、橋開通後は、長島から国道3号に繋がる道も年を追うごとに整備されていき、とても便利になりました。



車両第1号として記念品を受け取る松木さん

架

橋後の長島へ「夢」を抱いた若き青年は、50年の節目に、新たな「夢」を期待したいと話しました。

——50年前は何をしていましたか

農業協同組合に勤めて、青年団の活動や野球にバレーなどスポーツクラブの活動を行っていました。橋が架かって仕事の効率がグンと上がり、青年団やスポーツクラブ活動の幅が広がったのを覚えています。

——橋が架かる前の思い出は今だから言えるが、仕事で半日間町外へ出向している時に、休日長島へ帰省し、日曜日の晩にお酒を飲みすぎた場合は、フェリーの欠便とごまかして休みを取ったこともありました。

——橋が架かった後の変化をどのように感じましたか

特産のジャガイモが作られ始めたのは架橋前後だったのを記憶しています。最初は、加工用のジャガイモが多かったが、橋ができて輸送が容易になったおかげで、青果用のジャガイモが多く作られるようになりました。

——50年で多くの変化があった長島ですが、今後はどのようなことに期待しますか

全国でも人口減少が問題視されている中で、学校の統合や労働者不足など多岐にわたる課題を町民一丸となって乗り越え、新たな夢を描けるよう期待しています。

